

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500012		
法人名	特定非営利活動法人 まごころネットワーク		
事業所名	おおたかの森グループホーム あぜみち		
所在地	千葉県流山市大畔534番地		
自己評価作成日	平成22年5月3日	評価結果市町村受理日	平成22年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・同敷地内にある介護サービス施設との行き来でご利用者の多様な活動を図っている。 ・同敷地内に菜園もあり、自然に囲まれ散歩コースに恵まれた環境である。 ・ご家族はもとより、どなたにでも来ていただけるようなオープンな施設となっている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成22年5月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、「笑顔で明るくオープンに」を理念に掲げ、「周りの緑豊かな自然環境に溶け込んで施設全体が明るく、職員も笑顔を決して絶やさず、どなたでも遊びに来てもらえる施設にしたい」という気持ちを込めて運営している。職員は明るく接しており、家族アンケートでも「職員は生き生きとしている」「今のサービスに満足している」と満足度が高い。敷地内には法人が運営する5つの福祉施設があり、この施設から当ホームに移行した家族からは、「同じ環境で馴染みのある職員のサービスが受けられて安心」との声が聞かれる。職員はこれらの施設に週1回勤務し、いろいろなことを学び刺激を受けている。また当法人はヘルパーの資格取得、再就職のための訓練事業も行っており、地域の福祉サービスへの幅広い貢献のみならず、卒業生が当法人で働き質の高いサービス提供にも役立っている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“笑顔で明るくオープンに”という理念を唱和しながら職員一同取り組んでいる。	当ホームの理念は、「笑顔で明るくオープンに」である。「施設全体が明るく、職員も笑顔を絶やさず、いつでも遊びに来てもらえる施設にしたい」との思いを込めている。昨年12月に全職員でつくったので趣旨をよく理解しており、日々理念の実践に務めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として、清掃行事に参加したり、地元農家の方のふれあい市場に出かけたりしている。	自治会に加入しており、ゴミゼロ作戦への参加や、近くの「ふれあい市場」に毎週、野菜を買いに出かけている。ホームの夏祭りに自治会長や近隣の人に参加を呼び掛けたり、ひな祭りの時に腹話術のボランティア訪問があり、地域との交流を大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ノウハウを具体的に地域貢献に役立たせている場面は少ないが、見学者のお話を伺ってアドバイスなどはしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	充分とはいえないが、評価結果をもとにサービスの改善向上に向けてご意見をいただきながら前向きに取り組んでいる。	運営推進会議は3カ月に一度、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、家族等、8名が参加し、ホームの運営状況や課題等について話し合っている。参加者からの意見はホーム運営に活かしているが、地域との更なる交流への対応についてはこれからである。	地域の中で更に交流を深めるために、出席者から「老人会への参加」などが示唆されているが、関係者と可能性について前向きに検討し、施設運営に活かすように期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	充分とはいえない。 運営推進会議以外にも、積極的に行き来して、ご意見をいただき活かしていきたい。	市担当者と直接交流する機会は少ないが、グループホーム連絡会で市より法令改正の情報伝達があり、スプリンクラー設置等の相談を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由を奪う行為になっていないか、常に留意して取り組んでいる。1F玄関の施錠は危険防止の為施錠している。	身体拘束しないことを基本としており、身体拘束の事例はない。2階のホーム出入口は鍵をかけず、1階のディサービスと行き来が出来るように配慮しているが、1階の玄関出入口は危険防止のため施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	冊子を手元に置き、いつでも見ることが出来るようにしている。 虐待に及ばないよう、職員のストレス管理に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人的に学んで、知ってはいるが実際に活用できていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は時間をかけ行い、理解をはかっている。 契約時にのみならず、随時疑問点には説明を付け加えている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時はもちろん、家族懇親会のなかでご意見、ご要望を出していただき、それらを運営に反映させている。	家族からの意見・要望は、運営推進会議や家族の訪問時に聞いている。また、家族からの提案で本年1月に家族懇親会を実施し、多くの意見を頂いた。出された意見・要望はすぐに改善し、サービスの向上に役立っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月末ミーティングを開催し、意見提案を言ってもらい、反映させていく方向でやっている。	職員からは、月例ミーティングや毎朝の朝礼で活発に意見が出されており、その都度改善に役立っている。職員は「意見が言いやすく、働きやすい」と感じており、家族アンケート結果でも、「職員は生き生きとしている」と回答者全員が答えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	折に触れ、職員の声に耳を傾け、個々の努力をねぎらい、意見など聴くようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	把握に努め、研修を勧めることによって、向上心、意欲喚起に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みが未開発である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>話しやすい雰囲気の中で傾聴し、信頼関係をより早く築けるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人が席をはずされた所でゆっくりお話していただき、ご家族の心の安定にも努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>他のサービスも含めたベストな方法を探るためアドバイスもさせていただいている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共同生活者として、誰もが心地よく暮らせるように細やかな気遣いをしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月発行の“おたより”により活動報告をしたり、家族懇親会の開催などで共に支えていってほしいことをアピールしている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>具体的に取り組めていない。 ご家族の協力も必要と考える。</p>	<p>当ホームは、理念としている「オープンに」を実践し、家族や知人が訪問しやすく、職員も訪問を喜んで受け入れている。家族と墓参りに出掛けたり、正月には自宅で過ごされる方もおり、利用者の思いを大切にし継続的な交流が出来るよう支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員がうまく関わりながらほのぼのとした場面が作られるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用期間中のADLや気づき事項をお話し、相談支援に努めている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接的な質問に答えられる方は少なく、日常会話などから推察する努力をしている。	利用者の思いや意向は、初回面接時に詳しく聞くとともに、常に利用者寄り添い、日常の会話や何気ない表情や態度から把握している。利用者の状態や家族の意向は申し送りノートに日々記録し、職員で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用してご家族に記入していただき、情報源のひとつとしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を利用して、各職員が本人の一日の過ごし方を記録に取り、話し合いながら把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身の変化に伴い、職員間の話し合い、家族への報告を経て介護計画の見直しに取り組んでいる。	介護計画は、センター方式を取り入れてアセスメントし、月例のミーティングで話し合いを重ねながら作成している。計画の見直しは、状態に変化があった時に行い、家族の同意も得ている。	モニタリングは状態に変化があった時だけでなく、利用者の状態把握の為に定期的に行って頂くようお願いしたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報の中で個別観察的な記録がされ、申し送りノートを活用して情報の共有に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同敷地内に別の介護サービスはあるが、さらに取り組みが必要とされる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで民間団体の方に来ていただいたり、消防訓練に参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が定期受診で同行してくださっている。必要があれば職員も同行し説明に応じたり、逆に質問させていただいている。	かかりつけ医への受診については家族が対応している。現在、退院された方のホームへの往診を協力病院にお願いしており、定期往診についても検討中である。協力病院は2箇所あり、緊急時の連携もできている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護師に相談し、適切なアドバイスを得たり、実際に診てもらったりもしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族とも連絡をとり、速やかに対応できるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関利用となって、その後の対応で家族も含め話し合っている。	重度化や終末期に向けての利用者・家族の意向は把握していないため、利用者の体調の変化に応じて入院や別の施設への移動で対応してきた。今後は、対応方法を検討していく予定である。	利用者・家族の意向や希望を把握し、ホームとしての取り組みについての検討をお願いしたい。又本件に関する職員への研修等も計画して頂くことを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、各自が心構えとして勉強し、個人的に救命法の講習を受けたりしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の状況に応じた避難方法がとれるよう、全スタッフが身につけている。近隣との協力体制もとっている。	毎年2回消防署の指導の下、法人全体で火災訓練を行っている。自主訓練時には、職員が利用者を背負って非常階段を降りる訓練も行っている。近隣の24時間営業の飲食店との協力体制も出来ている。スプリンクラーは平成23年3月に設置を予定している。	職員の人数が少ない夜間帯を想定した避難訓練や、災害用品等の備蓄の検討を順次お願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇として、言葉かけは敬う気持ちを忘れず、丁寧な声かけを心がけている。	言葉かけは馴れ馴れしくならないように心がけ、プライバシーにも配慮して行っている。利用者の居室に入る時には必ずノックと声掛けをし、居室の掃除は利用者と職員が一緒に行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との信頼関係を築いた上で、ゆっくりとした言葉かけで話しかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちをまず確かめるような声掛けから始まり、無理強いはいしないよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶ所から、本人と共にを心がけ、楽しい会話の中でおしゃれに関心を持ってもらうようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に応じて無理のない形で一緒にやっていただいている。	一週間の献立は利用者の好みの物を入れて作成している。利用者はそれぞれの役割を持って職員とともに食事の準備・片付けを行っている。また誕生日にケーキでお祝いしたり、時には外食やお茶を飲みに出掛けており、利用者の楽しみになっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減、嚥下能力などを見ながら食事量、形態を考えている。水分確保にも気をつけている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは声かけして、介助する方も含め、全員行っていたいっている。就寝前は入れ歯を預かり洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めて、あるいはご本人の行動から推察して声かけをし、トイレ誘導をし、トイレ排泄を支援している。	職員は利用者の排泄リズムを把握し、トイレでの排泄を支援している。日中、リハパンを使用している方も夜間はオムツやポータブルトイレを使用せず、トイレ誘導を行うようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と運動不足に気をつけ、個々に応じた食事内容で便秘対策としている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常午後の昼食後から入浴の準備をしているが、就寝前にも希望があれば対応できる。	週2～3回午後入浴出来るようにしている。利用者の希望により、午前中や就寝前に入浴することもあり、一人ひとりの気持ちや健康状態に合わせた支援を心掛けている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後であろうと、昼食後であろうと眠りたいとの訴え、あるいは様子があればいつでも休んでいただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬準備と服薬実行の際のチェックをし、忘れないように努めている。 薬のことを知り、症状の変化に速やかに対応できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族からの情報を元に少しでも楽しい、うれしいと感じていただけるよう、試行錯誤している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は特に力を入れ、目標としている。日常の散歩、車でのドライブから企画を凝らした行事まで。	天気の良い日は必ず散歩に行っている。敷地内の畑で作業を楽しんだり、市内や近隣の公園へのドライブ、広報誌に掲載されたイベントに家族や職員と一緒に参加することもある。また週3回はスーパーへ車で食材を買出しに出かける支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方には、お金を所持していただき、買物にも同行している。少しあやうい方には小額ずつ持っていたりなどの工夫をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話対応ができる方にはこちらからかけたり、受けたりしていただいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けたり、観葉植物を配置し、利用者の作成品を展示して心が和む空間作りに努めている。	ホームは2階部分にあり木々に囲まれた環境にある。明るくて広いリビングには心地よい風が入り、ゆったりとした時が流れている。広いトイレや廊下、洗面所は清潔で掃除が行き届いている。利用者が生けたりリビングの花に季節感が感じられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2か所に置き、食事後にくつろいでいただいたり、奥にティーラウンジを配し、隠れコーナーのようにもなっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた家具、飾り物などを自由に持ち込んでいただいている。	利用者の馴染みのものを持ちこみ、シンプルな居室もあれば、利用者の嫁入り道具の鏡台とちゃぶ台を置いている居室もある。窓からは木々の緑が美しく、掃除や換気にも気を配り、清潔で居心地良い。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いホール、長い廊下にも手すりがあり歩くだけの運動も確保できるようになっている。		